

筑波大学大学院 理工情報生命学術院
システム情報工学研究群

サービス工学学位プログラム(修士)

<https://www.sk.tsukuba.ac.jp/PPS/>



社会人特別選抜5枠を増設しました



サービス工学学位プログラムでは、リアル・地域・バーチャルの3つの対象に対し、効果性のサイエンス・効率性のサイエンス・統合のアートという3つのスキルを身につける為の科目を履修します。

サービス工学

シンポジウム



サービス工学学位プログラムでは、筑波大学の建学の理念にある「筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。」ことを追求し、「開かれた大学」として M1の修士論文の研究プロポーザルと M2の修士論文の成果を公開する価値共創の場を設けています。それが、サービス工学シンポジウムです。

サービス工学シンポジウムは、サービス工学学位プログラム開設の初年度から毎年2月中旬に開催し続け、在籍する現役の大学院生が企画・運営を行ってきました。サービスを机上で学ぶだけでなく、自分たちがサービスを企画し、設計し、準備し、運営し、サービスすることが、理系のサービス・イノベーターを育成するにあたって必須の経験であると私たち筑波大学は考えています。サービス工学学位プログラムへの進学に関心がある社会人・大学生の皆様、「つくばのサービス工学」に興味がある市民の皆様、是非気楽に遊びにいらしてください。

留学生モデル



周 倩

アクセンチュア株式会社

サービス工学学位プログラムで過ごした2年間はとても有意義で、貴重な経験をさせていただきました。講義の全体を通して、「本当の社会」というコンセプトを貫いていると言えます。企業が本当に抱えている悩みを解決するために、チームを組んで、様々な手段で調べ、市場を理解し、協力し合いながら作業をしました。また、実際のデータをいただき、それを元に分析することができます。期限内に完成させて、結果報

告を行うという一連の流れを何回も体験でき、自分たちの今まで学んできた知識はどのように活用できるのか、課題を解決していく際に不足している部分は何かなどを体感することができました。問題解決の力や、チームが上手くまとまって進めるように努力をしたことなど、サービス工学を通してこの経験ができて本当によかったです。

筑波大学モデル



廣田 菜月

トヨタ自動車株式会社

サービス工学学位プログラムでは、社会問題に取り組む際に必要な知識やスキルを学ぶ講義に加え、それを活かす場として産官学連携が必須の修士研究が課されています。そのため、学類時代や大学院進学後の講義で得た知識やスキルが世の中でどのように役立つかを明確にすることができました。知識やスキルの集約に留まらず、現実問題に取り組むことでそれらを活かす力を身につけることができるのはサービス工学

の魅力だと感じています。もちろん、講義が充実していることも大きな魅力の1つです。サービス工学の講義では様々な分野におけるデータを各方面から提供していただき、実際にそれを分析することで問題の把握から解決するための施策の提案まですべて行います。これにより身に付けた分析力やプレゼンテーション力などは、修了後も大いに役立つと確信しています。

社会人モデル



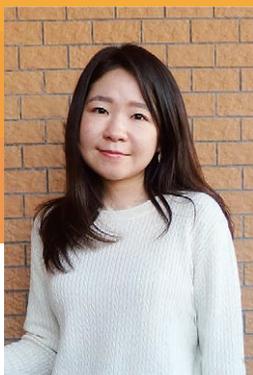
川岸 卓司

防衛省 陸上自衛隊

私は陸上自衛隊に入隊後、平成25年度に国内外大学院研修制度により筑波大学大学院の博士課程に入学しました。この間、博士課程の履修をしつつ別分野の修士を目指すDDP(デュアルディグリープログラム)により、「サービス工学学位プログラム」を修了しました。本プログラムにおいては異なる年齢層とグループワーク等の活発な議論を実施することができ、大変良い刺激となりました。昨今の複雑かつ答えのない問題が多い社会においては、如何に進むべきかを自ら考え、答えを出し、多様な相手を納得

させる力が必須となります。このような中、サービス工学学位プログラムは“実際の課題”に対する、現状の科学的分析や解決スキル、得たスキルを多様なフィールドで使いこなすノウハウ、現実問題に立ち向かう積極性・社会性・協調性等を養うなど、今後の社会に必要な力を身に付けられる最良のプログラムです。私自身、このプログラムで身に付けたスキルやノウハウを安全保障等に関する研究のみならず、現場で起きる様々な問題に対してもスピード感と正確性をもって解決するために役立てております。

他大学モデル



村江 優奈

日本アイ・ビー・エム株式会社

私は、他大学でソフトウェア工学を専攻していましたが、サービス業についての問題意識からより実践的な授業を求めてサービス工学学位プログラムへ進学しました。サービス工学には他大学・他分野からの進学者も多く、授業では個性豊かな同期と実社会の課題についてチームで取り組みました。実際に企業や自治体が抱えている課題について伺い、問題点や施策を講義で教わった方法論等を駆使しながら特定し、現場の方へ成果を発表するまで授業で行います。そ

のため、授業を通して現場の課題を体感するとともに、課題への多様なアプローチを実践することで視野を広げることができました。また、企業や研究所、他大学と共に研究するため、ミーティングや学会など成果物を発表する機会が多くありました。こうした発表を積み重ねることで、自分の考えたことを論理的に伝えるスキルを実践的に学ぶことができました。仕事では常にこのスキルを求められるため、学生時代に学べたことは大きな財産となっています。